

全国から131件の応募があった中、書類選考によって選ばれた20校が全国大会の会場、国連大学ウ・タント国際会議場に足を運びました。厳正なる審査の結果、環境大臣賞、環境再生保全機構 理事長賞、先生が選ぶ特別賞、高校生が選ぶ特別賞はそれぞれ以下の高校に決定。その他の高校には優秀賞が授与されました。



## 環境大臣賞

副賞：海外での環境活動体験

### 静岡県立静岡農業高等学校 松葉研究班

「三保松原の環境づくりを目的とした循環型松原共生プロジェクト」

世界文化遺産である三保松原は、以前の7割にまで本数を減らしている。その原因を観光バス等による環境汚染、放置松葉による土壌の富栄養化によるものと着目。地域住民とともに松葉かきを行い、松葉の入浴

剤を開発し、売上の一部を観光客や地域住民などへの啓蒙活動費に充てるとともに、松原から離れた駐車場利用推進の呼びかけなども行っている。



## 環境再生保全機構 理事長賞

副賞：国内での環境活動体験

### 京都市立伏見工業高等学校 マイクロ水力発電グループ

「水車プロジェクト マイクロ水力発電で用水路を活かし里山環境を守る」

螺旋開放型可搬式のマイクロ水力発電を用いて用水路でのエネルギー創出という価値を生み出す研究。地元で修理運用ができることを条件に、効率のよい水車の開発

を行ってきた。水車は海外にも渡り、好評を得ている。今後も中山間地域を中心にマイクロ水力発電の台数を増やしていく予定。



## 先生が選ぶ特別賞

### 東筑紫学園高等学校 理科部 広谷湿原保全プロジェクト

「広谷湿原を含む平尾台カルストをラムサール条約に!!」

広谷湿原は日本で唯一の湿地で、研究調査により短期間のうちに湿原面積が大きく減少していることが分かった。この原因を2000年の湿原保全工事と予測。人の手で壊してしまった自然の時間軸を元に戻すべく地域と一緒に活動を行っている。



## 高校生が選ぶ特別賞

### 愛知県立佐屋高等学校 除草戦隊アヒレンジャー

「アヒル農法でホタル舞う水田環境を実現!!」

無農薬のアヒル農法で農地の環境を守りつつ、生物多様性を守る活動。アヒルは近隣農家にも貸し出し、地域での環境保全に取り組んでいる。今年度はさらにゲンジボタルの養殖、放流を行い、地域環境の保全を推進した。



## 審査委員講評 (敬称略、委員長以下50音順)



### 委員長 小澤 紀美子

東京学芸大学名誉教授  
それぞれの活動を通して、『学び』を引き寄せる力を皆さんの発表から見た気がします。



### 委員 筒井 隆司

WWF(世界自然保護基金)ジャパン事務局長  
地元の自然を大事にして、育て、価値として訴えていく皆さんの活動を聞いて嬉しく思いました。



### 委員 林田 昌也

キリン株式会社  
執行役員CSV本部CSV推進部長  
学校だけでなく地域と一緒に、コミュニティとして活動していく視点が素晴らしいと感じました。



### 委員 深見 正仁

環境省 大臣官房審議官  
皆さんが21世紀の社会を担っていく、その力を今つけているんだと確信しました。



### 委員 福井 光彦

独立行政法人環境再生保全機構理事長  
今の活動にNPOやNGOとの連携、海外への情報発信や海外との連携を加えていってほしいです。



### 委員 松井 孝夫

全国高校生自然環境サミット代表理事  
皆さんの活動が実社会に出たときにどんな効果があるのか、どんな成果があげられるのかも聞きたかったです。